

みんなの「なんな-の?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)



信毎こども記者ニュース

発行/連絡先

こども記者クラブ(信濃毎日新聞) 〒380-8546 長野市南県町657
TEL 026-236-3110 FAX 026-236-3193 電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp

no.76

城下町・松本を掘りまひた



松本市のシンボルとなっている国宝・松本城。400年あまり前に建てられたお城の周りには、多くの町人が商いをする町が栄えました。江戸時代の面影を今に伝える中心市街地で、信毎こども記者クラブは9月12日、取材教室を開き、こども記者16人が町中を見学して歩き、発掘調査が進む松本市中央2(本町)の信毎新松本本社建設地では発掘を体験しました。どんな「発見」があったでしょう。



どきどきわくわく!

みんなで発掘を体験しました=松本市の信毎新松本本社建設地

加島入江記者

松本市3年



おかしのお皿を見つけてよかったです。つちをかまですりまひました。ほるときに、かまのはじっこのかどでほるといいよといわれました。それでほったらすぐにおかしの皿が見つかりました。どんどんほっていくと土があつまってきたので、スコップで土を一りんしゃに入れました。見つけたお皿は青と白の色のお皿でした。すごくきれいかったです。

三島葵記者

松本市5年



発くつ調査をするときは、かまを横にして使って土を少しずつつけていきます。ほってみたらお皿の小さいかけらを見つけました。もう少ししたら、おはしの一部もみつけました。細く平べったいアイスぼうみたいたので、少しずつ土をけずってきずをつけないように土をはらって行って、ぬけるくらいになったらおれないようにやさしくぬきました。

宮沢まこと記者

松本市4年



昔のごみすて場らしい所をほりました。ちゃわんのかげらや、やけたねん土などが出てきました。出土した物から、ここで火事があったということが分かりました。なぜかという、ちゃわんのかげらがぐによっとして、ねん土がやけていたからです。この日の発くつで、昔にどんなことが起きたかが分かりました。もっと発くつしたいと思いました。

喜多実日子記者

松本市3年



はくつで明治時代より前の、頭が四角いくぎをみつけました。はくつはさいしょに、かまですりまひ、その後スコップで形をととのえました。いらぬ土は入れ物に入れて、いっぱいになったら一りん車に入れておしていき、すてました。その一りん車はわたしにはけっこうかるく感じました。はじめてのはくつたいけんは、楽しかったです。

加島小浦記者

松本市5年



最初に三の丸の発掘現場に行きました。出てきたげたがありました。歯の部分のあつさが5ミリくらいになるまで使っているようすが分かりました。次に新松本本社予定地で実際に発掘しました。小さいお皿のはへんが出てきました。九州で作られたものと教えてもらいました。昔はトラックもなかったのにどうやって松本まで運ばれたのか知りたいです。

江戸時代に町人や武士が住んでいた所-今の松本市の地図に重ねると



町人が住んでいた所 武士が住んでいた所 寺・神社 古い地区のお堀・川 今あるお堀・川
※松本市観光パンフレット「まつもと水巡り」にのっている「享保13年(1728)秋改松本城下絵図」による城郭と城下町の復元図をもとに作製

三の丸の武家屋敷跡では、出土したいろんなものを見せてもらったよ



信 毎の新しい松本本社の建設地は、城下町の中心の本町にあり、江戸時代には塩や米、お茶、油などをあつかう大きなお店が軒を連ねていました。建設地は、17~18世紀に松本城を訪れるお客たちが泊まる「御使者宿」があったとされる場所で、身分の高い人が泊まることもあり、立派な建物があつたと考えられています。取材教室の日は、地表から1.5メートルほど掘り下げたところにある、18世紀の地層を掘りました。



発掘現場では説明も受けました

こども記者クラブのメンバーを募集しています。メンバーになると、特製記者バッジと名刺をプレゼント。「こども記者クラブ希望」と書いて、どしどし応募してくださいね。